

眼科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の 患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開し患者さんが拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関して、研究計画や関係する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 網膜前膜におけるレニン・アンジオテンシン系の発現解析

[研究機関] 北海道大学病院眼科

[研究責任者] 神田 敦宏（北海道大学大学院医学研究科眼科学分野・特任講師）

[研究の目的] 網膜前膜という病気は眼球後部の網膜の手前に網膜前膜（病名と同じ）という膜が張って、網膜の中で一番大切な場所である黄斑がそれに遮られてしまい、視力低下や歪視（ものが歪んで見えること）を引き起こす病気です。加齢や他の炎症性眼病変に伴って発症することが多い事が知られており、高齢者に多く、女性に起きやすい病気です。しかしながらその詳細な病態発症の原因や機序は現在のところ不明です。点眼加療や内服加療は無効であり、種々の疾患で薬剤加療が発達した今日においても、手術により外科的に網膜前膜を切除するしか治療法はありません。元来高齢者で多く発症する疾患であり、また全ての施設で手術加療が可能ではありませんので、適切な加療をうけられないまま過ごされている患者さんも見受けられ、このような患者さんの負担などを考慮いたしますと、手術加療より安全かつ多施設で加療可能となるような黄斑前膜に対する治療薬の開発は重要です。これまでの研究でレニン・アンジオテンシン系が眼内の炎症の発症に関与することが複数の実験モデルや臨床研究で示されております。そこで、本臨床研究ではこれまでに外科的に切除した網膜前膜組織および硝子体におけるレニン・アンジオテンシン系関連分子の発現の解析を行い、網膜前膜の病態形成への関与を明らかにすることを目的とします。網膜前膜におけるレニン・アンジオテンシン系の役割を明らかにすることで、これまでとは異なった視点からの新たな治療法の開発に結び付く可能性があります。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

網膜前膜の患者さんで、平成22年1月1日から平27年8月30日の間に研究用の網膜前膜と硝子体検体の切除・保管に同意された方

●利用する検体およびカルテ情報

検体：手術時に治療目的で切除された網膜前膜組織および硝子体検体

(以前に研究用としての保管に同意いただいた分)

カルテ情報：年齢、性別、疾患名、治療内容

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北14条西5丁目

北海道大学病院 眼科 担当者 神田 敦宏

電話 011-706-5944 FAX 011-706-5948 (眼科医局)